

中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会殿

「教育課程部会におけるこれまでの審議のまとめ」に関する意見

日本家庭科教育学会

教育課程部会において、数年をかけた長時間の検討を経て「審議のまとめ」を作成いただいたことに関し、心から敬意を表します。以下に、意見を記しましたので、よろしくご検討の程、お願い申し上げます。

1. 「男女共同参画社会の推進」へ対応する教育を、「審議のまとめ」に是非反映させて下さるよう、強く希望します。

2005年に制定された男女共同参画基本計画第2次では、第1次基本計画(2000年)に引き続き、以下の項目をたてて、男女共同参画社会に寄与する教育のあり方を示唆しています。

第2部 施策の基本的方向と具体的施策

10. 男女共同参画を推進し多様な選択を可能にする教育・学習の充実

ア 初等中等教育の充実

学校全体を通じた指導の充実

家庭科教育の充実

また、改正された教育基本法の目標の3にも、男女平等の尊重が謳われています。

さらに、2007年10月1日に行われた福田康夫首相の施政方針演説でも、「男女共同参画社会の推進」に取り組むことを明言されています。

もとより、貴「審議のまとめ」では、随所に家庭教育の重要性を述べております。一層複雑さを増している家庭教育がその機能を全うするには、父親も、母親も、またはそれに代わる人などが、家庭教育にかかわることが重要であり、そのために、男女共同参画社会の推進は必須条件と考えます。先の(1998年)教育課程審議会答申は、小学校から高等学校まで全ての学校段階における家庭科の改善について「男女共同参画社会の推進、少子化社会等への対応を考慮する(以下省略)」ことを示していました。是非、貴「審議のまとめ」においても、男女共同参画社会の推進という課題を学校教育に反映されるよう希望します。

2. 教科「家庭」、「技術・家庭」の時間増を検討して下さい、強く希望します。

貴「審議のまとめ」では、7の「教育内容に関する主な改善事項」で、7つの項目をあげています。その中の、「道徳教育」「体験活動の充実」「環境教育」「食育」「ものづくり」「キャリア教育」「安全教育」「心身の成長発達についての正しい理解」のいずれにも関わる教科が家庭科です。先の(1998年)教育課程審議会では、「家庭」・「技術・家庭」の時間数は、各教科の割り当て時間数一律削減の方針の下に、時間数が著しく過小となってしまいました。貴「審議のまとめ」では総時間数を増やすものの選択教科を削減する方向ですので、中学校「技術・家庭」の時間は、今よりも減少となります。「自立」を目標に、自分を見つめたり、「ものづくり」や「乳幼児や高齢者とかかわる」「地域社会とかかわる」という体験をしながら、環境問題など現実の生活の様々な課題をみつめ、その解決のために実践することを促す家庭科は、児童・生徒が大好きな教科となっているだけでなく、人や地域を大切にする日本人の資質の形成に十分に寄与するものと思います。ぜひ、「家庭」「技術・家庭」の時間増を検討して下さるよう、強く希望いたします。